

諸人のここに学びて—校長室から見える風景—(48)

地域医療を考える —先輩(卒業生)からバトンを受け取る—

6月3日人材養成プログラム(医療系人材)が実施されました。今回の講師は千葉義幸先生です。ご自身が院長であるちば内科・脳神経内科クリニックで多忙な日々を送られているかたわら、地域医療についてNPO法人「但馬を結んで育つ会」を立ち上げられ精力的に活動されています。本校の人材養成プログラムにも毎年ご講話をいただいています。そして、本校の卒業生でもあります。

ご講話の内容は、ご自身が地域医療に関わられるようになった経緯や、現在の但馬の地域医療の現状、そしてNPO法人の活動のようすなど、多岐にわたるものでした。

大学でのご勤務から地域医療へのご活躍の場を変える決断を「覚悟」と言われたことがとても印象に残りました。決断をした後、自分がどうするかそれが大切なこと。生徒にも響いたと思います。但馬地域の医療状況には本当にさまざまな課題があります。その解消に向けて先生が活動されていることを知るだけでなく、何よりもそれを「つなぐ」ことを生徒が実感してくれたらと思います。先生は「自分がこの仕事をやれるあと10年、20年の間ならみなさんにバトンをつなぐことができる。」と言われました。バトンを受け取る後輩が出てくることを期待し、私たちもサポートしていきたいと思えます。

千葉先生、ありがとうございました。

